

# 浜風の歴史

## 第1号（1970年1月） 館先生叙勲記念号—pp.74

発刊のことば（館先生著）に、「食物学研究会が発足して2年、このたび会誌を発刊することになった。」とある。「本学の各科に学会ができたのは日下学長の発案によるものである」、「この学会の目的は大学に入学された諸姉が大学の本質をよく理解体得して巣立ってもらいたいことにある」と記述されている。また、「会員の皆さんはこの学会誌を通じて、学問研究の成果を発表し、大学時代の深い思い出とされることを念願する」と期待を寄せられている。

第1号の内容をまとめると、館勇先生のご叙勲をご記念し、各先生方のご祝辞が述べられている。後半には、「フォワ・グラとエスカルゴのこと」（小出真次先生）および「日本を離れて」（八重野花子先生）と題し、海外学会に参加した先生のご報告、「食物・家政のあゆみ」（大西正三先生）と題し、新制大学の発足や大学設置基準のご説明、設備を整えることの困難さの記述、学生とその気質についての分析が行われている。さらに、「改訂された日本人の栄養所要量」（小出真次先生）と題し、1969年に10年ぶりに改訂された栄養所要量について詳しく解説されている。編集後記に、会誌名は学生を含めた8人の協力のもと、運営委員会の選考結果として“浜風”（大杉匡弘先生案）を採用することになった旨、表紙の“浜風”は館先生筆であることが記されている。

## 第2号（1975年12月）—pp.42

5年の月日が経ち、発刊のことば（大西正三先生）には、「食物学研究会が生まれて5年、会員の盛り上がりのすくないまま今日に至っている」と嘆かれ、「5年間を無為に過ごしてきたような気がする」と振り返っている。また、大学で学ぶということに対して「当今の学生はこういった自発的に専門分野のことを知ろうとしない、といたい位不勉強であると思う」と嘆かれた上で、「この食物学研究会のあり方をより安定なものにすることこそ教官、学生が協力して進めなければならない急務である」、「5年ぶりに浜風が発刊される—中略—学生諸君の純真な真理の探究への盛上がりを強く、強く期待する次第である」と結ばれている。

第2号は幽明境を異にされた乙葉先生を偲ぶ記事で始まっている。「[ものもらい]と[のし]と[餅なおらい]のこと」（小出真次先生）と題して、「柳田国男集」全36巻から、食生活の原像というものにふれる3つの興味のある話を引用し、要約されている。この年は柳田国男生誕100年の年に当たり、家政学を学ぶ女性の人たちに柳田国男の文章を読むことを推挙されている。「バイエルンの夏」（土井昌子先生）と題し、ドイツにおけるご遊学のご様子をご報告されている。また、学生さんによる「栄養士実習奮闘記」、「能登で」、「北九州の正月料理について」、「雑煮」、「新宮の寿司」、「能勢の食べもの」、「オイルには二種類必要」、「山賊」、「クラスの食べ物調査」、「カボチャ」、「私の人生観」、「プディング」、「料理についてのアンケート」、「食物学研究会の運営について」、「学生の皆さんに」、「食物学研究会と幹事会の結びつき」、「短大家政科幹事長になって」という多種多様な食や学科についての記事が掲載されている。編集後記には、「学

生会員からも原稿を募集し、特に食べ物に関する記事を主として載せ、気楽に読んでいただける内容のものとししました」と記されている。

### 第3号（1976年10月）－pp.48

発刊のことばなし。石橋将孝先生を偲ぶ記事で始まっている。特集・研究室紹介として、12研究室を紹介している。形式は各研究室PIによる数行（400文字程度）の自己紹介、卒論生による研究内容・研究室の紹介（2000文字程度）が記述されている。また、「大学院からのアピール」（浅田千春先生）、「オタワの夏」（高木従子先生）、学生さんによる「短大家政科で思うこと」、「働く女性の知的な魅力」、「とろろ汁」という記事が掲載されている。編集後記には、「「会員相互の親しみを増すように」とのはからいで、研究紹介を特集」した旨、先生、友人、先輩たちの活躍ぶりを紹介した旨が記されている。この年より研究会年会費が1000円となる（前年までは500円）。

### 第4号（1977年12月）－pp.46

発刊のことばなし。“特集：世界を見つめて”に、「文化国ニッポン」（富田恒夫先生）、「研究生生活のなぐさめ」（大杉匡弘先生）、ニュージーランド（埴生恭子先生）が寄せられている。“新企画：先輩は今～卒業後の近況～”に、8名の卒業生から、仕事のこと、趣味のこと、生き方のことが紹介されている。3名の学生より学生生活のことが記されている。似顔絵コンクールなるものが実施され、学生作の9名の先生の似顔絵が掲載されている。学生評議委員代表、幹事長の活動報告、座談会報告、文化祭講演報告、学生アンケート：食物学研究会に対する意識調査が掲載されている。「浜風を読んだ事がありますか？」という質問に、76%の学生がYesと回答している。また、「保存していますか？」の質問に81%がYesと回答している。「浜風で特に興味のある記事は何ですか？」という質問には、研究室、先生、先輩の紹介、卒業論文、教員による散文、郷土料理の紹介、旅行記と回答があり、「浜風に対する希望記事は？」という質問に、研究室の紹介、就職情報、先輩たちの反省や思い出が上がっている。

### 第5号（1978年12月）－pp.56

久保先生、種子島先生御退官記念とし、お二方のご紹介とお二方による手記が寄せられている。「ナイフやフォークのこと」（小出真次先生）、「料理で愛を」（土井昌子先生）、「ある街で」（秋宗君江先生）、「私の毎日」（石崎由美子先生）と題し、教員からの食に関する知識、経験談が紹介されている。大学院生による大学院生活の紹介、9名の学生による食に関する散文が掲載されている。6名の学生による学外実習や教育実習の報告がなされている。“先生の学生時代は!!”という特集が生まれ、「昭和一ケタ時代の学生生活」（大西正三先生）、「学生時代の思い出」（福田満先生）と題して、先生の学生時代の楽しかった思い出、迷い、希望を読者にご紹介されている。他、先輩の進路に関する情報、教員の推薦書の紹介、研究室の教員構成の紹介、年間行事の紹介と学生による行事の感想が記されている。編集後記には、「未開拓を開拓していこう」と思っている

ましたが、境界線を越えた程度で終わってしまいました」と記されている。

#### 第6号(1980年2月) —pp.46

下村弘先生、土井昌子先生、高木従子先生のご退任を記念した寄稿。浜渦全一郎先生、杉本温美先生の着任の寄稿。「夢現」(加藤幹夫先生)、「日本分析化学ハワイ講演に参加して」(石井裕子先生)、「洋上大学に参加して」(山口淑子先生)、「本場の中国料理を味わって」(毛利康子先生)の寄稿。大学院生活の紹介、5名の学生による教育実習・栄養士実習の報告、就職状況の報告、卒業生の集いの報告、4名の卒業生による卒業生だより、数行の全研究室の紹介、年間行事、特別企画の講演についての報告を行っている。

#### 第7号(1980年12月) —pp.53

「六味思考」(富田恒夫先生)、「わらびの旬」(浅尾俊夫先生)と題した寄稿。「女性の生き方について」という企画の中で、「広野」(八重野花子先生)、「若き日にトレエニングを」(高木幸子先生)、「原点」(前田實子先生)による経験談、「旅中食事記抄」(小出真次先生)の寄稿、新企画：研究室ノートを企画し、「食べ物とあわ」(豊沢功先生)と題した学術的読み物、「洋上大学に参加して」(吉江慶子先生)、ふるさとの味(井上八壽子先生)、「ものぐさ奥さん繁昌記」(高尾絹代先生)と題した寄稿。大学院生活、卒論生活の紹介。学外実習の報告。女子大生の食生活についての意識調査、先輩の就職状況の報告、卒業生だより、研究室の構成紹介、食物学研究会の活動報告を掲載している。

#### 第8号(1982年2月) —pp.75

巻頭言「食物学とエコロジー」(豊沢功先生)、総説「パプア・ニューギニア高地の Kau-Kau eater—その生活と石蒸料理」(大阪府立大学・農学部 南出隆久先生)、トピックス「フロンティア電子理論のこと」(小出真次先生)、“この人と語る 30分”という企画で「呈味ペプチド」と題し、富田恒夫先生へのインタビューの記述、研究室ノートの中で「変身の一步は科学分析から」(滝山一善先生、石井裕子先生共著)、「発癌と変異原性」(平良昌彦先生)、「ステロイドホルモン作用機構あれこれ」(寺田雅子先生)による学術的読み物、新任紹介「トラ豆と伴に」(大谷貴美子先生)、栄養士実習と私(柴田美佐子先生)、「私の旅行感」(村中和子先生)による寄稿、学会だよりによる学会の紹介、卒業生だより、私の健康法という企画にて10代から70代の健康法を紹介、就職状況報告、研究会の活動報告を掲載している。

#### 第9号(1983年2月) —pp.57

巻頭言「講義実験考」(滝山一善先生)、食味レポート「手造り醤油の見学によせて」(石津日出子先生)、レクチュア「パーソナルコンピューターの事始め」(小出真次先生)、「栄養調査について」(中野遼先生)、研究室だより「研究テーマの選択と成果」(浅尾俊夫先生)、「アジア人の豆の食べ方」(豊沢功先生)、「小さな窓」(前田實子先生)、「忘れ得ぬ人々」というテーマで10人

の先生の思い出を寄稿、新任紹介にて2名の先生が寄稿、就職状況、研究会の活動報告を掲載している。第9号より学生の記述がなくなる。

#### 第10号(1984年2月) —pp.58

大西正三先生のご追悼記事に始まる。レクチュア「澱粉の特性と利用」(杉本温美先生)、トピックス「武庫川女子大学へ来て」(米澤大造先生)、「学生に望むこと」(村上裕子先生)、「男の子の大学・女の子の大学」(原久子先生)、海外レポート、研究室ノート、研究会の活動報告、就職状況を掲載している。学生の記述なし。

#### 第11号(1985年1月) —pp.54

同様の企画が繰り返される。学生の記述なし。

#### 第12号(1986年1月) —pp.50

新家政館(現H1およびH2館)落成記念特集。休館の思い出、新任紹介、トピックス、卒業生便り、栄養士実習報告、研究会の活動報告、就職状況を掲載している。学生記述の復活。

#### 第13号(1987年1月) —pp.73

レクチャー、トピックス、新任紹介、研究室ノート、卒業生便り、研究会の活動報告に加え、“新しい教科へのねらい”、“女性と職業”という企画にて、前者は昭和60年より短大家政科が家政学コースと食物学コースにわかれ、さらに家政学コースが生活学分野と健康管理分野に分かれたことに伴い、新しい教科が開設されたことを受け、いくつかの新しい教科(生活工学、食事学演習、家庭園芸、調理科学実験)を担当教員が紹介している。後者はテーマに沿った内容を教員と学生が寄せている。

#### 第14号(1988年2月) —pp.85

巻頭言「知識と知恵—そして発想を」(高木幸子先生)、提言「ホンモノの豊かさの家政学」(西尾康三先生)、トピックス、管理栄養士国家試験、海外研修、新任紹介、学生ノート、卒業生だより、就職状況報告とアンケート、研究会の活動報告(ただし、特別企画、シリーズ企画を活動報告から切り離して記述)を掲載している。

#### 第15号(1987年1月) —pp.65

巻頭言「研究の活性化を期待して」(金森正雄先生)。食物学研究会のこれから(浅尾俊夫先生)と題して、研究会の見直しについて語られる。その中で「研究会の発足趣旨は紀要発行と各学科の研究活動の促進のためであった—中略—昨年度から紀要の発行は大学側にゆだねられるようになりました。それにともない、食物学研究会そのものの位置づけも変化し、食物・家政の会員達の独自性がより一層発揮されやすくなり、否、発揮しなければ存在理由が希薄になる恐れ

が、出てきました。少し具体的なことにふれてみましょう。ひとつは会員の経済的負担と予算執行の件です。紀要発行の際の諸経費が要らなくなりましたから、研究会年間活動計画とそれともなう予算執行について基本的に再検討する必然が生まれてきました。次に活動内容の再検討です。いままで、毎年くり返される活動の成果が、その年度限りで流れ去ってしまい、積み重なってこなかったのが何とも惜しいと思います、「目標を定めて活動すると、よそには真似の出来ない成果が得られるのではないのでしょうか」、「文化祭での会主催の講演会 —中略— このことはアカデミックな活動をしているとして、全学的に高い評価を受けています」と問題提起をされている。年会費は年 1000 円（次年度 500 円に変更）。他、「食物学研究会への期待」、管理栄養士国家試験について、「講義の窓から」という企画で 5 人の先生がアカデミックなトピックスを語り、おいしい話、早春中国旅日記、ソウルかけある記、ダブリン訪問、シリーズ企画、文化祭講演から、特別企画、就職状況報告、研究会活動報告が記されている。

#### 第 16 号（1990 年 1 月）—pp.48

タイトルから館先生ご執筆の「浜風」が消える。この年から 4 年間ローマ字で「HAMAKAZE」とされる。巻頭言「食物学研究会の再出発」（浅尾俊夫先生）と題して、「—前略—、平成元年度より会則の変更を行い食物学研究会の再出発をすることになりました。すなわち研究会の活動目的の一つであった学生、教員一体の食物学研究への取り組みと活動は、本年度より食物学研究会の主たる目的として活動することになりました」と語られており、会則第 3 条の 4 項目が「武庫川女子大学紀要の頒布」が削られ、3 項目となる。また、第 10 条の会費が 500 円に変更される。また、退学等によって資格を失った会員の会費返却に関する記述が削られる。この巻では、特別企画として学生に食物学研究会誌掲載論文を募集し、入選者の発表と論文を掲載している。他、卒業生からの職場だより、食生活情報センターのスタートの広報、研究会の活動報告が掲載されている。

#### 第 17 号（1991 年 1 月）—pp.50

巻頭言（林郁先生）、海外研修記（3 名の先生）、家政学会奨励賞を受賞して（大谷貴美子先生）、新任の先生の紹介（5 名の先生）、文化祭講演会から、研究会活動報告が記載されている。

#### 第 18 号（1992 年 2 月）—pp.60

巻頭言（豊沢功先生）、海外トピックス（6 名の先生）、特集「アルコールについて勉強しよう」（4 名の先生）、文化祭講演会から、管理栄養士国家試験情報、研究会の活動報告が掲載されている。

#### 第 19 号（1993 年 1 月）—pp.69

巻頭言（浅尾俊夫先生）、海外研修記（4 名の先生）、新任紹介（11 名の先生）、特別企画 1「大学院の研究生活を振り返って（研究奮闘記）」と題して、4 名の院生の記述、特別企画 2「特別

研究 A での研究生生活を振り返って（研究奮闘記）」と題して、2 名の短大生（特別研究 A は短大生の希望者が受講した科目のようである）の論文が記載されている。他、管理栄養士国家試験情報、最新の食生活情報、文化祭講演から、研究会の活動報告が掲載されている。

#### 第 20 号（1994 年 1 月）—pp.53

表紙の「浜風」（館先生筆）が復活する。巻頭言（浅尾俊夫先生）、海外研修記（3 名の先生）、新任紹介（8 名の先生）、トピックス（4 名の先生）、管理栄養士国家試験合格記（2 名の学生）、文化祭講演、卒業論文題目、研究会の活動内容が掲載されている。

#### 第 21 号（1995 年 1 月）—pp.83

巻頭言（金森正雄先生）、文化祭講演、ワンポイントレッスン（5 名の先生）という企画でアカデミックなトピックを紹介、ミニレビュー（他大 2 名の先生）、トピックス、卒業論文題目、短期大学特別研究、修士論文題目、博士論文題目、研究会活動報告が掲載されている。

#### 第 22 号（1996 年 1 月）—pp.68

巻頭言（豊沢功先生）、トピックス、文化祭講演会、ミニレビュー、ワンポイントレッスン（5 名の先生）、博士論文題目、修士論文題目、卒業論文題目、特別研究題目、短期大学特別研究題目、研究会活動報告が記載されている。

#### 第 23 号（1997 年 2 月）—pp.79

巻頭言（市川富夫先生）、これからのバイオテクノロジー（文化祭講演会の内容、他大の先生の手記をテーマでくくる）、ワンポイントレッスン（3 名の先生）、海外こぼれ話（2 名の先生）、博士論文題目、修士論文題目、卒業論文題目、特別研究題目、短期大学特別研究題目、研究会活動報告が記載されている。

#### 第 24 号（1998 年 1 月）—pp.76

巻頭言（山王義一先生）、トピックス、文化祭講演会、ワンポイントレッスン（1 名の先生）、海外こぼれ話（2 名の先生）、博士論文題目、修士論文題目、卒業論文題目、特別研究題目、短期大学特別研究題目、研究会活動報告が記載されている。

#### 第 25 号（1999 年 2 月）—pp.60

巻頭言なし。トピックス、研究室紹介（15 研究室）、学生のみなさんからの投稿（4 名の学生：食に関すること）、修士論文題目、卒業論文題目、特別研究題目、研究会活動報告が記載されている。

#### 第 26 号（2000 年 2 月）—pp.62

巻頭言なし。トピックス、研究室紹介(15研究室)、学生のみなさんからの投稿(1名の学生：夏休みに食した料理のこと)、修士論文題目、卒業論文題目、特別研究題目、研究会活動報告が記載されている。

#### 第27号(2001年3月) —pp.44

巻頭言(大杉匡弘先生)、文化祭講演概要、退職された先生から(2名の先生)、海外トピックス(3名の先生)、「食物栄養学科(食物学科)・食生活学科(家政科)」名簿整理について、卒業論文・特別研究題目、研究会活動報告が記載されている。このとき、整理した名簿に関しての連絡先は現在在籍中の先生では高橋享子先生となっている。

#### 第28号(2002年3月) —pp.67

巻頭言(南部征喜先生)、トピックス、文化祭講演会、活躍の現場から(短大卒業生1名による栄養士業務の紹介)、編集員学生によるページ(徳島の郷土料理、スポーツ栄養士の紹介、管理栄養士の大学院生へのインタビュー)、合格までの道(管理栄養士、教員採用試験、各1名)、博士論文題目・修士論文題目・卒業論文・特別研究題目、研究会活動報告が掲載されている。

#### 第29号(2003年3月) —pp.104

巻頭言(南部征喜先生)、講演記録、トピックス、新任の先生方より、在校生・卒業生から、OGから、食物学研究会学生リサーチ、博士論文題目・修士論文題目・卒業論文・特別研究題目、研究会活動報告が掲載されている。

#### 第30号(2004年2月) —pp.68

表紙・中身ともカラーとなる。巻頭言(南部征喜先生)、食物栄養学科・食生活学科・大学院食物栄養学科専攻合同同窓会設立記念講演、学科セミナー、新任の先生方より、OGから(3名)、在校生から(8名)、食物栄養学科・食生活学科・大学院食物栄養学科専攻合同同窓会設立を迎えて、合同同窓会規約(案)、博士論文題目・修士論文題目・卒業論文・特別研究題目、研究会活動報告が掲載されている。

#### 第31号(2005年2月) —pp.77

巻頭言(南部征喜先生)、トピックス、活躍の現場から、特集「スポーツ栄養士」、OGインタビュー、新任先生にインタビュー、先生のおすすめ本、修士論文題目・卒業論文・特別研究題目、研究会活動報告が掲載されている。最後に読者アンケートが付録されている。

#### 第32号(2006年2月) —pp.71

巻頭言(南部征喜先生)、トピックス、突撃インタビュー(在学生の活躍)、学生から、先生から(デーザートランキング、おすすめ本&映画のインタビュー)、わくわくインタビュー(先生

へのインタビュー)、修士論文題目・卒業論文・特別研究題目、研究会活動報告が掲載されている。最後に読者アンケートが付録されている。

### **第 33 号 (2007 年 2 月) —pp.68**

巻頭言 (福田満先生)、トピックス (H2 について)、特集、新任の先生にインタビュー、わくわくインタビュー、国家試験合格卒業生へのインタビュー、新人栄養士からの報告、修士論文題目・卒業論文・特別研究題目、研究会活動報告が掲載されている。最後に読者アンケートが付録されている。

### **第 34 号 (2008 年 2 月) —pp.78**

巻頭言 (福田満先生)、トピックス (新カリキュラムについて)、特集、文化祭講演、先輩栄養士からの報告、新任の先生にインタビュー、わくわくインタビュー、国家試験合格卒業生へのインタビュー、修士論文題目、卒業論文、卒業演習題目、研究会活動報告が掲載されている。読者アンケートがなくなる。

### **第 35 号 (2009 年 2 月) —pp.70**

巻頭言 (福田満先生)、トピックス、特集、文化祭講演、新任の先生にインタビュー、先輩栄養士からの報告、わくわくインタビュー、国家試験合格卒業生へのインタビュー、博士論文題目、修士論文題目、卒業論文、卒業演習題目、研究会活動報告が掲載されている。

### **第 36 号 (2010 年 2 月) —pp.72**

巻頭言 (福田満先生)、トピックス、特集、文化祭講演、先輩栄養士からの報告、新任の先生にインタビュー、わくわくインタビュー、国家試験合格卒業生へのインタビュー、博士論文題目、修士論文題目、卒業論文、卒業演習題目、研究会活動報告が掲載されている。

### **第 37 号 (2011 年 2 月) —pp.78**

巻頭言 (福田満先生)、トピックス、特集、文化祭講演、先輩栄養士からの報告、新任の先生にインタビュー、わくわくインタビュー、国家試験合格卒業生へのインタビュー、博士論文題目、修士論文題目・卒業論文・卒業演習題目、研究会活動報告が掲載されている。

### **第 38 号 (2012 年 2 月) —pp.92**

巻頭言 (田代操先生)、トピックス、特集、文化祭講演、食物栄養学科主催講演会、学科セミナー、「先輩に聞く！」への卒業生インタビュー、新任の先生にインタビュー、わくわくインタビュー、食物栄養学科・食生活学科に Lavy が誕生しました！、修士論文題目・卒業論文、研究会活動報告が掲載されている。



**第 39 号 (2013 年 2 月) —pp.92**

巻頭言 (田代操先生)、トピックス、特集 (分野紹介・研究室紹介)、文化祭講演、報告 (在外研修報告)、「先輩に聞く！」卒業生へのインタビュー、学校行事、博士論文題目、修士論文題目、卒業論文、研究会活動報告が掲載されている。